資料２

永田浜におけるウミガメ観察のあり方について

【永田浜ウミガメ観察ルールの目的】

- 北太平洋最大のウミガメ上陸地である永田浜におけるウミガメの産卵ふ化環境を保全すること
- 永田集落における人とウミガメの繋がりの長い歴史を途絶えさせず、その経験を活かした適正な利用を実現すること。

１．目指すべきウミガメ観察のあり方（これまでの協議会における発言より抜粋）

◆ **ウミガメへの影響を極力抑えたものであること。**

- 観察会の受け入れ人数を 40 名程度に絞れば、見せるウミガメも２頭程度で済み、全体の観察時間も短くなる。レクチャーも徹底できるようになる。
- 30 名を 1 グループとして 2 回転、計 60 名でもよいのでは？
- 人数は、例えば 80 名なら 80 名と決めて、影響を確認し、必要な見直しを行いながらやっていくしかない。
- 人数を変えないとしても、集合時間の時間厳守してもらうことは大事。
- 観察区域を規制するばかりではなく、かつてはなかったイバラを除去するなど、産卵場所を広げることも必要。

◆ **永田集落における人とウミガメの繋がりを伝えるものであること。**

- 永田集落は、古くからウミガメとの関わりが強い場所で、ウミガメ保護条例制定後も観察会という形でウミガメとの繋がりを保ってきた。
- 子どもの頃は、ウミガメの卵を貴重なタンパク源として食べていた。
- 我々は、ウミガメを守るということが永田のためになると思ってやってきた。

◆ **環境教育の場であること。**

- ウミガメが見られない場合でもレクチャーだけで満足してもらえるような内容にすることが大事。

◆ **参加者の安全を考慮したものであること。**

- 人の動線が交錯し、人が入り乱れれば、事故の危険性が高まる。
- 少人数であれば、団体で行動する際の機動力もよくなり、安全性が高まる。雨が降っても屋根のあるスペースを確保できる。

◆ **屋久島全体にウミガメ保護に対する理解が得られたうえで成立するものであること。**

- 観光客に対して厳しいルールを要求するには、まずは屋久島の地元住民がウミガメに対する認識をしっかり持つことが礼儀である。
- 屋久島の島民全てが「ウミガメを守りましょう！」という意識を持つようになることが大事。

◆　永田浜における経験を他の集落に広めること。

・　永田浜でウミガメ観察ルールを作ったことで、他の海岸で観光客が急増している。
・　今後屋久島は観光で生きていくしかない。自然資源を活用する観光モデルが永田で構築できれば、他の地域にも広めることができる。

◆　ウミガメの保護にも観察会にも携わる人材を育てること

・　永田集落も過疎化しており、これまでの活動を永続的に続けていくことは難しい。ウミガメの調査にも観察会にも携わる人材を育てることが必要である。
・　社会保険等の保障をつけて、人をきちんと雇用できるようになればいい。